

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	10 月	14 日	記入者	久門たつお
調査者名	石井	垣内	久門	鶴田	

文化財名	陀々堂の鬼面				
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input checked="" type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	2015年(平成27)3月27日				
所在地	五條市北山町930の2、市立五條文化博物館				
所有者 管理者	念仏寺(五條市大津町)。管理は寄託先の五條文化博物館内、五條市教委文化財課				
員数	4面(父鬼面、母鬼面、子鬼面、伝阿弥陀面)				
時代区分	室町時代 1486年(文明18)				
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)	
案内板の状況	五條文化博物館で常設展示の複製品4面の横に説明プレート有り。				
公開	オリジナルは五條文化博物館で收藏・保管し非公開。複製品を常設展示。				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input checked="" type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足(製作から500年ほど経過、傷みが進み1960年(昭和35)に複製品を作った。)				
当面の課題	オリジナルは五條文化博物館で收藏されていて、特に問題はない。				
今後の課題	1960年に製作された複製品は2セット。毎年1月14日に五條市大津町の念仏寺で行われる国指定重要無形民俗文化財「陀々堂の鬼はしり」用と、五條文化博物館の常設展示用。「陀々堂の鬼はしり」は全国でも珍しい屋内での火祭りで、鬼面は大きな炎にさらされる。複製品ではあるが、今後も大切に引き継いでいっていただきたい。				
その他 (由緒など)	オリジナルには1486年の墨書銘がある。父鬼面(赤鬼)は長さ60cm、幅38cm、母鬼面(青鬼)は長さ51cm、幅36cmと大きく、重さは共に約4.5kg。子鬼面(茶鬼)と無銘の伝阿弥陀面はやや小さい。オリジナルはカヤ、複製品はヒノキの共に一木作り。父鬼面と子鬼面は口を開いた阿行で2本角、母鬼面は逆の咩行で1本角となっている。				
コメント	五條文化博物館で常設展示されている鬼面見学後、念仏寺を訪ねて「念仏寺鬼はしり保存会」前会長の岩阪雅由さんからお話を伺った。陀々堂内で鬼役の3人が担ぐ松明(たいまつ)は重さ約60kgもあるという。念仏寺修正会結願の行事で、東大寺二月堂のお水取りが起源となっていることに奈良の伝統行事の奥深さを感じた。鬼面の表情はどこか優しく、阿弥陀如来に仕え除災招福をもたらす善い鬼という説明に心 and だ。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020年	10月	14日	記入者	久門たつお
調査者名	石井	垣内	久門	鶴田	

文化財名	陀々堂の鬼面
------	--------

「陀々堂の鬼面」 父鬼面(左)と子鬼面	母鬼面(左)と伝阿弥陀面 =4面とも複製品
---------------------	-----------------------



「陀々堂の鬼はしり」の常設展示の写真

五條市北山町、五條文化博物館内の常設展示



五條市大津町にある念仏寺陀々堂(本堂)

陀々堂内。松明の中には燃え残りの松の根が

